

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233 1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年1月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームは広々とした高台の平地に位置し、周りには田畑があり農家の方が季節の野菜を作っているためホームに いながらして季節を感じることが出来る。  
 ・気候の良い日などは利用者様と手を引き歩行や車いすでの散歩を楽しんでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議の中で災害対策について検討し、地域住民との協力体制を築いている。また、定期的な防災訓練や夜間想定通報訓練、冬季の避難路の整備もしている。運営推進会議の中の意見をうまく活用し、サービスの質の向上に繋げている。  
 ・食事を楽しむことのできる支援については、利用者に献立の意向を聞き、心のこもった食事を提供している。開設して、7年目を迎え、嚙下障害や全介助が増える中で、個別に食事の形態や誤嚥をしない工夫が行われている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、申し送りの時、毎朝新たな気持ちを持ち、職員全員で理念を唱和し共有に努めている新人職員には理念の意味を伝え全員で日々実践できるように心掛けている	理念は目に触れやすい場所に掲示し、毎朝、職員で唱和をしている。新職員には、理念の意味を説明して実践に繋がるようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の子供たちが夏祭り、誕生日会等の行事に参加し、お互いの交流を育んでいる地域の行事、イベントにも参加し地域での交流を楽しんでいる	保育園児が年に2～3回、夏祭りや誕生会などに訪れている。また、地域行事や事業所のイベントに住民を招き、触れ合いの場としている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内、市外の専門学校、高等学校の実習の受け入れをしている。認知症について広く理解できるよう支援を行い相談にも応じている	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの内容や取り組み状況等の報告、委員の方々より指導や意見を戴き運営に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度、市職員、自治会長、民生委員家族などで行っている。会議の内容は、取り組み状況や行事、受診状況、困難事例などである。その意見は運営に反映している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導や集団指導講習会で市町村担当者と連携をとり質の高いケアを目指し協力関係を築いている	当市が認知症ケアに力を入れ、パンフレット配布や集団指導研修会など開催している。市担当者とは日頃から気軽に相談、助言ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修で身体拘束について勉強会を聞き意識の向上に向けて取り組んでいる	拘束をしないケアについて、事業所内で研修を開き、施錠や身体拘束をしない工夫として、ベッドの高さや介護用品の工夫、見守りを重視し、玄関の施錠はしてない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、知識を得て、ミーティング等で説明し防止に努めている	/	/

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に該当する利用者はいないが研修等で各制度を学ぶ機会を持ち共有できるように取り組んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や利用料について説明し、家族の要望や不安等には十分な理解や納得が得られるように努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望や希望に添ったケアが出来るように意見をうかがっている意見、要望を通じて運営に反映できるように支援している	運営に関する意見は、利用者の何気ないつぶやきや表情から把握している。また、家族会や面会時の家族の意見は、毎月発行している広報紙の中に一口メモとして送付している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、職員会議、ミーティング等で職員の意見、提案を聞き、反映できるように取り組んでいる	職員の意見は、ミーティングや定例会議の中で提案や要望を聞いている。また、法人内の異動により、新職員が多い為、その都度意見を聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の「ケアに対する意識や実績、前向きな姿勢」等を把握しつつモチベーションを高めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、毎月1回事業別会議を開催している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホーム宅老所連絡会に加盟し職員が研修に参加している学習を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困難なことを伺い毎日のコミュニケーションを通じて、安心感が得られるように信頼関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に本人の状態や介護困難な話、ホームへの要望等を伺い、どのようなサービスが支援できるかを伝えている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を受け止めて必要な支援の見極めをしている 他の支援サービスも考慮し対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、洗濯物をたたむ、おやつ作り等と一緒にを行うことで、ともに出来上がる工程を試行錯誤しながら楽しみあえる関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や新聞等で状態を報告し本人の要望、希望が添うケアをともに支えていく関係作りに努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙が届いた場合、返事を出したり、面会が来た時にはゆっくり話が出来ようなスペースの提供、家族からの(への)電話等、関係が途切れないような工夫、支援を努めている	馴染みの美容院やかかりつけ医の受診、地域のイベント、家族との電話、手紙の交換など馴染みの関係を大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わり合いを大切にしている 関係を共有し一人ひとりが関わりを持って過ごせるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ見舞いに行く際は励ましの言葉を掛けたり、相談に応じたりすることで、それまでの関係を大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、接する中で言葉だけではなく、毎日の表情、態度から思いや意向を把握する、また、困難な方には家族(本人を知る者)からの情報を得る	一人ひとりの思いや意向は、生活歴や表情、しぐさの中から把握している。また、利用者との触れ合いの多い家族や面会者に思いや意向などを聞いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始に備えて関係者や家族に本人の生活スタイルの中での希望意向を聞きサービスリ余の把握を務めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムに添って食事、排泄、心身状態等を職員が把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で利用者や家族の思いや要望を共有し介護計画に反映させるようにしている 会議等で状態の悪かった方の介護計画を検討している(3か月に1度は見直し、検討を行う)	思いや意向をもとに実行しやすい介護計画を作成している。定期的モニタリングを開き、3ヶ月に一度見直しをしている。特に病状により、転倒を繰り返す利用者に対し、医師との連携を深め、ヘッドギアや離床時の対応について検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子、バイタルチェック等で状態の変化に注目する 評価を行い現状に即した介護計画となるよう努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の急な要望等は職員全体でその都度対応し希望に添えるように取り組んでいる		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の子供たち、地区のボランティア等に呼びかけをして、歌や踊り、紙芝居をしてもらうことがある		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医を決め受診や訪問診察で連携を図り支援している	受診の支援は、多くのかかりつけ医と連携し、適切な医療を受けられる体制である。状態悪化の利用者に対しては、訪問診療を2週間に一度受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康管理や状態変化の兆しや経過観察等を共有し適切な受信や対応が出来るように努める		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し情報や経過観察で退院に向けて関係づくりに努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望であれば終末の看取介護を行い、訪問看護と連携をとって実施している。	利用開始時に重度化や終末期のあり方について家族の思いを確認している。開設して7年目になり、利用者も重度化しており、家族の意向をもとに訪問診療、訪問看護を受け、終末ケアに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との連携を図り定期的に避難訓練を実施し救命講習等の実践訓練を行ったり急変時はマニュアル確認で対応している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し火災通報訓練や避難経路の確認を行っている	運営推進会議で災害について検討し、地域住民との協力体制も築いている。また、定期的な防災訓練や夜間想定通報訓練、冬季の避難路の整備も行っており、備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にプライバシーの保護のため、徘徊者が他の居室へ入らないよう施錠する等の支援をしている	理念に、「人権の尊重」を掲げ、利用者の誇りやプライバシーを大切にしている。定例会議で理念を振り返り、一人ひとりを大切にしたいケアに取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に寄り添い接しながら本人の希望や要望を把握し、その思いを自己決定出来るように支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて食事時間等をずらしたり利用者様の状態や希望に合わせて対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ行ってカットを希望する方は、その都度本人希望、家族の方の了解をとり外出、出張等で対応している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を持って材料を刻んだり器に盛って並べることはできないが出来る作業があれば職員と一緒にしている	利用者に献立の意向を聞き、心のこもった手料理を提供している。重度化により嚥下障害や全介助の利用者も増えているため食事形態も個別に対応している。また、おやつのみたらし団子にも、粉とお豆腐を混入するなど嚥下しやすい工夫がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎日記録している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に誤嚥性肺炎防止を心がけている		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツ対応の方には日中はリハビリパンツに交換しトイレの声かけ、誘導、介助を行っている	一人ひとりの排泄パターンをもとに、さりげないトイレ誘導を行っている。できるだけ常時おむつ使用は避け、日中はリハビリパンツで対応をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食事は繊維質の多い野菜をメニューにとり混ぜるようにしている 水分補給を定期的に行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日で入浴計画を立てているが、本人の希望、体調に合わせて変更する配慮をしている	入浴室の設備は重度化に備え、吊り下げ式の機器を導入しているが、利用者は使い慣れた浴槽に介助してもらいながら浴槽に浸かり、入浴気分を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション、個別訓練を促し、個々の状態により生活リズムを整えている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイルにまとめており、職員がいつでも確認できる体制をとっている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLの低下や認知症が進行しつつある方にとって残存能力をなるべく活かせる作業をこちらから提供している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて本人の希望があれば(声かけに応じれば)散歩、外気浴を行っている 地域のイベントや四季折々の景色を楽しむような外出支援を行っている	利用者の意向をもとに、寿司ツアーやぶどう狩り、地域のイベントなどに出掛け、家族にはその様子を広報紙に一口メモを入れ送付している。また、事業所周辺の広大な野菜畑を見て廻り、外気に触れている。	

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの管理の希望がなければ家族が管理している 本人希望に添って買い物等必要な支払いをしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をすること、手紙を出すことができるよう支援を行っている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには中央に吹き抜けがあり、天気の良い日は太陽の光が入り明るく開放感のある室内である 周囲を眺めれば畑や木々など季節感が感じられ心地よく過ごせるよう工夫している	日当たりのよい緑の田畑に囲まれ、眺めの良い場所にある。リビングは吹き抜けの天井で開放感がある。料理を作っている職員と対面式の造りで、会話ができるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間に座ったり横になったり、気の合う方とお互いにお話が出来たりくつろげる空間づくりを工夫している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあったもの・好みの花など、それぞれに合った家庭的雰囲気作りを目指し工夫している	各部屋は収納のスペースが広く、整理整頓が行われている。また、それぞれの部屋には、使い慣れた三味線や家族より贈られた蘭の花、思い出の写真、趣味の作品などが置かれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内部は安全な環境面の配慮とスムーズな動作を促すため、手すりやスロープを付けて安全確保に努めている		